

群 教 セ	F 08 - 01
	平 29. 265 集
	生徒指導

互いを認め合う 人間関係づくりができる生徒の育成

—他者のよさが見える「EAST」を通して—

特別研修員 高山 篤志

I 研究テーマ設定の理由

群馬県教育委員会の「平成 29 年度学校教育の指針」では、「いじめ・不登校等の未然防止に向けた教育活動の充実」として、「自己有用感を育む、学校・学級づくりの推進」を学校経営の重点の一つとしている。

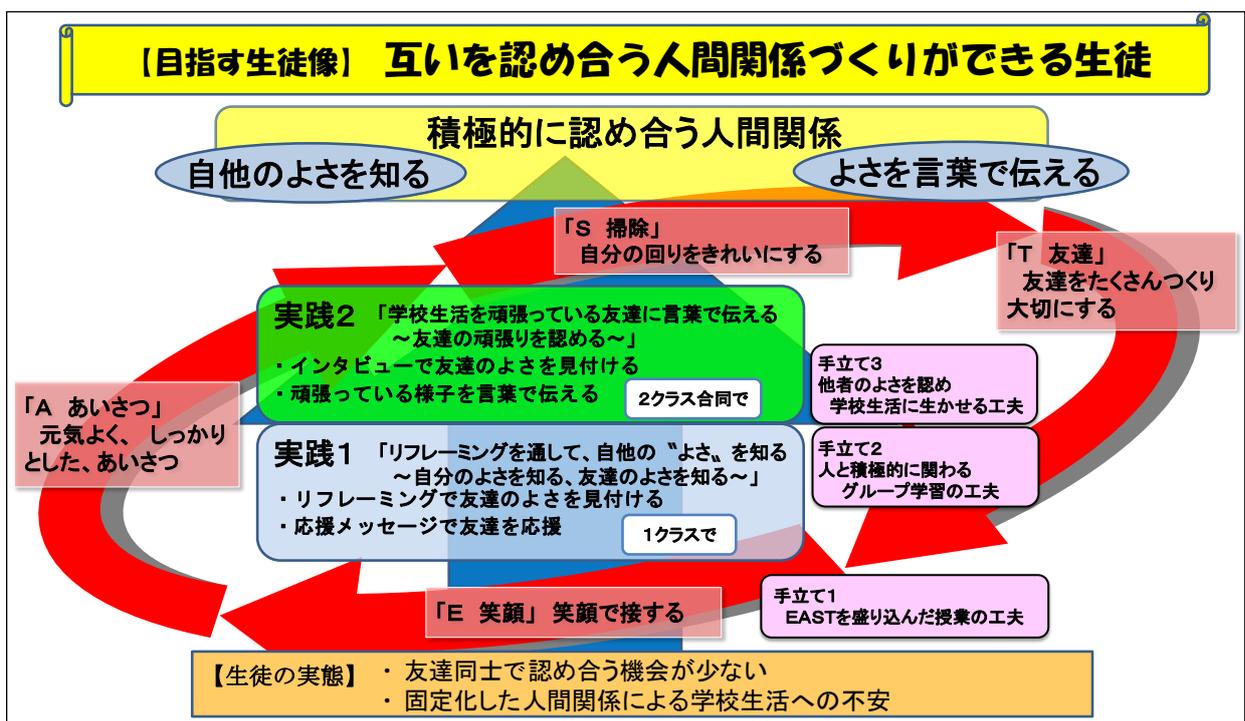
所属校の生徒は明るく、学校行事にも積極的に取り組む生徒が比較的多い。しかし、最近の課題として、不登校または不登校傾向の生徒が増加しつつある。

そこで、生徒の実態を把握することをねらいとして、2017年4月に1年1組（32名）を対象として自作のアンケートを行った。友人とのコミュニケーションについて「何でも話せる友達がいる」30名（93%）、「気の合わない人とも話をすることができる」19名（59%）、「友達が自分のことをどう思っているのか気になる」15名（46%）と回答した。「何でも話せる友達がいる」と回答した生徒の多くは、小学校から継続している固定した友人関係が続いていることが分かった。それに対し、46%の生徒が「自分のことがどう思われているか」を気にしている。この結果から、固定した人間関係から他者との関わりに不安が生じ、そのことが不登校傾向となる一要因と考えられる。友達同士で認め合う機会を増やし、生徒に安心して落ち着いた学校生活を築かせることが必要と考える。

所属校では、「EAST E（笑顔）A（あいさつ）S（掃除）T（友達）」を東中の宝物として平成24年度から全校共通のテーマに挙げて取り組んでいるが、「EAST」への意識がやや薄くなっている。そこで、互いに認め合う人間関係づくりに結び付けて「EAST」を生徒一人一人に意識させたいと考えた。これにより自他のよさに気付き、互いに認め合い、より良い人間関係を築くことが生徒の不安を解消し、不登校の未然防止につながると考え、本研究テーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

東中の宝物「EAST」を生徒に意識させ、授業の中の随所に取り入れていくことが、相手のよさを見付け、よさを伝え合い、自他のよさを認め合うための一助になると考えた。1学期に行った実践では、相手のよさに気付くためにリフレーミングを学び、自分自身の良い点を再発見し、見方が変われば考え方も変わることを理解して、他者のよさに気付けるようにした。笑顔（E）、あいさつ（A）、友達（T）の三つを意識して応援メッセージを送ることは、他者のよさを頑張ってもらいたいという願いに変え、認め合いのきっかけになると考えた。

2学期の実践では、2クラス同時に授業を行った。クラスで自他のよさを認め合えることができてきたので、それを広げるために認め合える集団を大きくした。これまでに学んだリフレーミングを使い、相手のよさを見付け合った。さらに、インタビュー活動で友達の良い所を見付け合い互いに認め合うようにした。このように相手のよさを言葉で伝えることを通して、自他のよさに気づき認め合えるようになると考えた。

学校の共通テーマである「EAST」を生徒に定着させることは、学校全体が認め合える雰囲気づくりにつながると思い、以下のような手立てで授業実践を行った。

手立て1 EASTを盛り込んだ授業の工夫 ・授業の随所に、EAST（E笑顔）（Aあいさつ）（S掃除）（T友達）を様々な活動と関連付けて行うようにする。
手立て2 人と積極的に関わるグループ学習の工夫 ・授業開始時、アイスブレイクとしてリフレーミングを行い、他クラスの生徒と打ち解け合うきっかけにする。 ・問題提起の場面のロールプレイを教師が実演することで、生徒の活動に対しての抵抗感を和らげるようにする。
手立て3 他者のよさを認め、学校生活に生かせる工夫 ・相手のよさを言葉で伝えることを通して、互いに認め合える態度を育てる。 ・インタビュー活動の感想をワークシートにまとめ、グループで共有し、互いのよさを認め合うことで相手の気持ちを理解できるようにする。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 友達に自分自身の短所を長所としてリフレーミングしてもらえたことで、自分に自信を持つ生徒が見受けられるようになった。さらに、応援メッセージを渡す際は、「EAST」のE（笑顔）A（あいさつ）T（友達）を意識して、相手を思いやる、認めることを大切にして交換していた。
- グループの活動として行ったリフレーミングは、生徒全員が積極的に取り組んでいた。また、応援メッセージを考える際は、グループで相談して他者を思いやる言葉を交わして活動していた。
- 実践後のアンケート結果では、「もっと相手の良い所を見たい（知りたい）」と回答した生徒が83%から95%になった。2クラスで互いのよさが見える人間関係づくりを行ったことは、自他のよさを見付け、認め合うことに有効であった。
- 友達の良い所を言葉で伝える機会が少ないので、相手のよさを言葉で伝え合う活動を通して、互いを認め合うことの大切さを実感していた。

2 課題

- 「友達の良い所を積極的に見付けることができたか」という問いに、女子生徒は100%、男子生徒は54%と回答した。1学期から他者のよさを認め合う活動を積み重ねてきたが、男子生徒に自信を持たせるために活動を工夫し、多くの人たちと関わったり、認め合ったりする場面を増やす必要がある。
- 互いのよさを認め合う活動では、言葉で伝えることを中心とした。付箋やワークシートに書き込み、視覚的に残せるように工夫する必要がある。

実践例

1 題材名 「学校生活を頑張っている友達に言葉で伝える

～友達の頑張りを認める～（第1学年・2学期）

2 本題材について

本題材は、「互いのよさを見付け、伝え合う活動を通して、自他の個性に気付き認め合う態度を身に付ける」ことをねらいとして設定した。

2学期に行った林間学校や体育祭では、互いのよさを見付けて声を掛け合うなど、クラスの中で相手を認める姿が見受けられるようになった。そこで、クラス内の生徒だけでなく他クラスの生徒のよさに気付き、互いに認め合う活動を取り入れ、自分のよさを再発見させる。他クラスの生徒と活動をすることに戸惑う生徒もいると思われるが、これまでの活動で身に付けたリフレーミングを通して互いに打ち解け合う雰囲気をつくる。「もっと多くの生徒と関わりたい」と考える生徒が多くいるため、他クラスの生徒と互いのよさを見付ける活動を行うことは、積極的な人間関係づくりにつながると考えた。

また、本活動を通して相手のよさを見付け、他者と積極的に関わることはクラスの枠にとらわれず、学年としての人間関係づくりに発展すると考えた。他者のよさを見付け、伝え合う活動をクラスの枠を超えて行うことで、互いに認め合い他者と積極的に関わるができる生徒の育成につながると考え、本題材をもとに2クラスで実施した。

所属校では、「E A S T - (E笑顔) (Aあいさつ) (S掃除) (T友達) -」をテーマとして挙げており、学校生活の様々な場面で生かせるように取り組んでいる。本研究では、このE A S Tを授業の中に取り入れる。「E (笑顔)」は、人と接する際に相手の目を見るようにしたり、握手や拍手をしたりする。「A (あいさつ)」は、「ありがとう」「はい」「よろしく」などの言葉を相手にはっきりと伝えるようにする。「S (掃除)」は、教室の環境整備に努める。「T (友達)」は、クラスや校内への気配りを大切にする。このように、E A S Tを授業の手立てとして取り入れ、互いのよさを認め合うことを意識して活動を行えるように授業を展開する。さらに、自他のよさに気付き人間関係づくりに積極的に取り組む生徒を育てるためには、クラスの枠にとらわれず、互いに認め合うことができるように本活動を実施した。

以上のような考えから、本題材では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	互いのよさを見付け、伝え合う活動を通して、自他の個性に気付き認め合う態度を身に付ける。	
評価 規 準	集団活動や生活への 関心・意欲・態度	活動に意欲的に取り組み、自分のよさに気付き他者と積極的に関わろうとしている。
	集団の一員としての 思考・判断・実践	自他のよさに気付き、集団の中で互いに認め合おうとしている。
	集団活動や生活に ついての知識・理解	自他のよさを知り、理解を深め、実生活と関連付けている。
時間	主な内容	主な学習活動
事前の活動	問題の発見 問題の意識化	・自分自身の短所をあげる（2組）。 ・2組の生徒の短所をリフレーミングし、応援メッセージを書く（1組）。
本時の活動	出し合う 比べ合う まとめる	・短所を長所に変えること（リフレーミング）を知る。 ・グループ活動で、友達のよさを見付けて言葉で伝える。
事後の活動	実践 振り返り	・相手のよさを正しく伝える方法を学習する。 ・学校生活の中でE A S Tを意識して活動する。

3 本時及び具体化した手立てについて

本時は、1学期に1年1組（以下、1組）で実践した「互いのよさを認め合う活動」を2クラス合同で行った学級活動である。1組の生徒が、1学期に学習したリフレーミングを1年2組（以下、2組）の生徒に対して行い、互いのよさを言葉で伝え合うことでクラス間の距離を縮められるようにする。展開では、「相手のよさを見付けるインタビュー」として、友達のよさを見付け互いに認め合う活動を行う。自分のクラスメイトだけでなく、他クラスの生徒のよさを見付けて伝え合うこと通して、自他のよさに気付くことができる考える。このように、他クラスと関わりを持つ活動を経験することで、新たな人間関係づくりを積極的に行えるようになると思ひ、以下の手立てをもとに実践した。

手立て1 EASTを盛り込んだ授業の工夫

- ・授業の随所に、EAST（E笑顔）（Aあいさつ）（S掃除）（T友達）を様々な活動と関連付けて行うようにする。

手立て2 人と積極的に関わるグループ学習の工夫

- ・授業開始時、アイスブレイクとしてリフレーミングを行い、他クラスの生徒と打ち解け合うきっかけにする。
- ・問題提起の場面のロールプレイを教師が実演することで、生徒の活動に対しての抵抗感を和らげ、積極的に活動できるようにする。

手立て3 他者のよさを認め、学校生活に生かせる工夫

- ・リフレーミングを通して、応援メッセージを送ることで互いのよさを認められるようにする。
- ・活動で見た相手のよさを言葉で伝え、互いに認め合える態度を育てるようにする。
- ・インタビュー活動の感想をワークシートにまとめ、グループで共有し、互いのよさを認め合うことで相手の気持ちを理解できるようにする。

4 授業の実際

(1) 手立て1 EASTを盛り込んだ授業の工夫

授業の随所でEAST「E笑顔」「Aあいさつ」「S掃除」「T友達」を取り入れた。「E笑顔」では、友達に認めて（褒めて）もらったことに対して、笑顔で「ありがとう」と言えるようにした。「Aあいさつ」では、1時間の授業を互いに気持ち良く行うことを意識して、生徒同士が向かい合ってあいさつをするようにした（図1）。「S掃除」では、来た時よりも美しくを伝え、授業後にまわりに落ちているごみを積極的に拾うようにした。「T友達」では、活動の終わりに握手し互いを認め合うようにした。



図1 生徒同士のあいさつ

(2) 手立て2 人と関わる活動が積極的にできる工夫

1組の生徒から2組の生徒に対してリフレーミングを行い、応援メッセージを送り、互いに打ち解け合えるようにした。インタビュー活動の説明の場面では、教師がインタビュー活動をロールプレイすることで（図2）、生徒が活動内容をよく理解してから、友達にインタビューを行えるようにした。



図2 教師のロールプレイ

(3) 手立て3 他者のよさを認め、学校生活に生かせる工夫

1組の生徒から2組の生徒にリフレーミングを行い、その生徒に合った応援メッセージを考えさせた（図3）。インタビュー活動の様子をグループ内で見合い、その生徒のよさを見付け、言葉で伝え認め合えるようにした。授業の後半では、生徒一人一人の感想をグループで共有し、相手の気持ちや考えを理解し、互いのよさを認め合う場面を設定した。

応援メッセージ

友達おもいで、協調性があるので、友達にとっても好かれると思います。また、がんばりやな所もあるのでがんばりすぎずに友達にたよってもいいと思います。

図3 生徒の応援メッセージ

5 考察

(1) EASTを盛り込んだ授業の工夫

「EAST」は、所属校が学校全体の共通のテーマに掲げているものである。この「EAST」を授業の随所で取り込んだことは、生徒の学校への所属意識を高め、クラス内だけでなく他クラスの生徒と積極的に関わろうとする意欲の向上につながった。始業や終業、グループ活動では、「E笑顔」で「ありがとう」と言葉で返すことを心掛け、互いのよさを認め合う活動につなげた。「Aあいさつ」では、相手の目を見て、互いに向かい合っあいさつを行った。「EAST」を盛り込んだ授業を通して、友達と交流したことで、同じ学校に所属する生徒として他クラスの生徒と関わろうとしたり、生徒同士で元気よくあいさつをしたりする生徒が見られるようになった。生徒が互いに認め合い、人間関係をさらに広げていくためには、すべての授業で「EAST」を取り入れ、学校生活全般で意識して活動できるようにしたい。

(2) 積極的に活動できる工夫

授業の導入で、1組の生徒が2組の生徒にリフレーミングしたことは、クラスの枠を超えて人と積極的に関わる気持ちを高めることに効果があった。

さらに、リフレーミングをもとにして考えた応援メッセージを伝え合う活動(図4)を取り入れたことで、互いのよさを認め合い、伝え合えたことに自信を持ち、活動への意欲を高めることができた。

ロールプレイの場面では、T1とT2が話す場面のバランスを工夫する必要があった。生徒は真剣に見ていたが、インタビュー活動の流れを理解できていない生徒が数名見られた。男子生徒と女子生徒、生徒個々への対応を工夫するなどして、より効果的な活動にしたい。

(3) 他者のよさを認め、学校生活に生かせる工夫

友達のよさを伝え合う活動では、生徒が互いに思いやりのある言葉を考え、笑顔で伝え合っていた(図5)。友達から自分の良いところを伝えてもらったことで、非常にうれしい気持ちになり、言葉で伝えることの大切さを実感した生徒が多かった。

生徒のワークシートには、認め合うことに対して肯定的な記述が多く見られた。よさを伝え合ったことで相手が笑顔になり、もっと相手のよさを伝えていきたいという思いを持つ生徒が多く見受けられた。



図4 メッセージを伝えている場面



図5 互いのよさを伝え合う場面

生徒のワークシートより

- ・自分の良いところを言ってくれる友達がいて良かった。
- ・自分が頑張っていることを友達に認めてもらってうれしいし、これからもがんばろうという気持ちになれた。
- ・インタビューを聞いているだけで友達の良いところが伝わってきた。
- ・自分がほめられている時はもちろんうれしかったけど、相手をほめている時も相手がうれしそうにしているのを見てうれしくなった。

実践後のアンケートでは、全体では79%、男子生徒54%、女子生徒100%が「相手の良いところを積極的に見付けることができた」と回答した。女子生徒は、1学期から友達のよさを認め合う活動を積み重ねてきたことで、積極的に友達と関わろうとする姿勢が身に付いていると思われる。しかし、男子生徒の半数は、友達との関わりを広げることへの不安や消極的な傾向が高いということが分かった。他者と積極的に関わろうとする気持ちを育むためには、生徒が自信を持つことが重要である。自他のよさを認め合う活動を増やし、友達と積極的に関わる姿勢を身に付けられるように工夫したい。